

「絵を描く」 色も形も思いのままに

大阪狭山市美術協会会員

三谷 瑞江

んー、私が自慢できるもの、んー、何かあるかなあと考えたけど…。これといって特別なものは何も無い。ただ特別なことではないけれど、三人の子ども達がそれぞれに独立して家庭を持ち、泣いたり笑ったりしながら、日々頑張っていること。孫八人がすくすく育っていること。自慢ではないけれど誇りに思っています。

私が、子育てに夢中になっているころから始めた油絵も、特別自慢できるものではないけれど、キャンバスに向かっているときは熱い思いで筆をとっています。もちろん、目にしたもので表現したいと感じたものは終始頭の中をうろろろしています。

長女が四歳の時に描いた絵が、あまりにも可愛くて素敵だったので、絵を描く機会を作ってあげたいと教室に連れていったのが、私が絵を描き始めたきっかけです。かれこれ三十五年経ちます。子ども以上に私の方が絵を描くことに夢中になってしまいました。

子どもたちが愛おしくて、その姿を描いていた時期、ある先生に「子どもが可愛くて描いたってのはわかるけど…」後の言葉はなかったけれど、その先は察しがつきました。もつとしっかり勉強しなさいと。随分

前のことだけれど、描いた子どもを見て愛おしさが伝わったとしたらすこいやん、なんて勝手に解釈していたかもしれません。その後も自由気ままに好きなものを好きなように描いてきました。形も色も自分スタイルで。「うまいなあ」とか「上手やね」なんて言っていたただいたことほとんどありませんが、時折「なんか、ほっとするねえ、あなたの絵をみていると」「また、瑞江ワールドに会えた」なんて言ってもらえると嬉しくて、ずっとこのままゆっくりと描き続けて行こうと思える瞬間です。今までに出会えた画家（絵）で惹かれたのは、三岸節子、クリムト、モディリアニ、エゴンシーレ。何なんでしょうか。私には出せない強い印象、メッセージ、かな。そして児童が描いた無邪気な絵。屈託も欲もない、素直でそれこそホッとします。大人は、なかなか素直にはなれないですから。

今後の目標は、描きためた絵を大好きな人たちに見ていただきながら語り合える時間を作ること、ほのぼのとした絵本を作ること。できたらいいな……。